

令和4年1月31日

## 令和3年度 教育課程編成委員会

大阪市立デザイン教育研究所

### 開催日時

令和4年1月31日（研究所展覧会期間）

### 教育課程編成委員

大阪商工会議所南支部副支部長

イベントプロデューサー／デザイナー（IT系）

大阪市立デザイン教育研究所 所長

大阪市立デザイン教育研究所 専任講師〔司会〕

### 学校側参加者・記録

大阪市立デザイン教育研究所 専任講師4名

### 添付資料

- （1）令和2年度末就職状況一覧
- （2）オープンキャンパス・パンフレット

## 教育課程編成委員会 次第

### 1 展覧会視察

15:10～15:20

大阪商工会議所西支部と取り組む「駅前ぶらりある区」プロジェクトの展示を視察

大阪商工会議所東支部と取り組む「商店街ハロウィン」プロジェクトの展示を視察

15:20～15:30

課題研究の展示を視察

15:30～15:40

春期セミナーを視察

15:40～15:50（所長室へ移動）

### 2 今年度の報告

15:50～16:10

(1) 新型コロナの影響

(2) 入試の状況

(3) 工芸高校との接続教育の状況

(4) 市立高等学校の大阪府移管に伴う影響

今年度のプロジェクトと授業から特徴あるテーマ

(1) すきまもり

・JR西日本

(2) にころぶ

・ジパング&近鉄百貨店

(3) インドネシア

・大阪大学

(4) 日本茜

・大阪・関西万博

### 3 委員からのご意見

16:10～16:40

(1) 産業界との連携について

(2) その他のご意見

### 参考

学校目標について

(1) 学生自らが工業製品やそれに類する“モノ”“コト”をつくりだし、未来を切り拓く力を育成する。

(2) 高校との接続専門教育の強化

## 議事録

(展覧会視察後に実施)

### F委員

#### (1) 新型コロナウイルスの影響

そろそろ2年になるが、多くの大学等でリモート授業が多くなっている中であって、今は対面授業がほとんどである。外部の先生方の授業の一部はリモートになっている。それぞれの所属しておられる組織のルールの影響である。デ研での感染者は1人と落ち着いている。

#### (2) 入試の状況

しばらく定員割れを起こしている。令和4年度については45人募集に51人の応募があった。工芸高校以外の人も増えた。正確に分析したわけではないが、多くの大学でリモート授業が多くなっている状況下で、対面授業が多く行えているのが魅力の1つであろう。学費が安いというのも魅力の1つであろう。それに加えて、入試の応募時の提出課題を少し変えた。次年度に向けてさらに分析が必要だ。

#### (3) 工芸高校との接続教育の状況

工芸高校の継続教育機関として設立された学校なので、工芸高校の連携はこれからも続けていきたい。デ研の先生が工芸高校生を教え、工芸高校の先生がデ研の学生を教えるということをカリキュラムの中で行なっている。加えて工芸高校で出前授業を行ったり、デ研生の特別講義に工芸高校生が参加している。

#### (4) 市立高等学校の大阪府移管に伴う影響

4月から大阪市立の高等学校が大阪府に移管される。デ研は大阪市に残る。今後は設置者が府と市に分かれるので、これまでのように簡単な手続きで交流ができなくなるかもしれない。

#### (5) その他

市教委と調整中だが、次年度以降の教育課程編成委員会のあり方を検討してまいりたい。大阪市(府)立の高校の学校協議会の仕組みに合わせると年間3回(目標設定、中間達成状況、年度末達成状況)の開催となるが、デ研の場合、どのような仕組みが適切なのか検討が必要だ。

### 司会者(G委員)

学校目標について説明。次年度の学校目標についてもご意見をいただきながら策定していきたい。

### 記録者

前年度の教育課程編成委員会のD委員からのご助言をもとにした取り組みとして、とっとり君バッジを今里商店街のハロウィンプロジェクトに合わせて作成し、デ研の知名度を上げることにデ研全体で取り組んだ。折に触れて教職員やデ研生は着用している。

### D委員

#### (1) 産業界との連携について

デ研展を見て、去年よりまたバリエーションがまた増えたのかな、と感じた。(すきまもりのプロジェクトを見ていて) 平面をどう立体化するかが今後の方向性になるかと

思う。すきまのキャラクターを立体化してグミにするなどしてハロウィンで販売してみてもどうか。私の会社でも中国でテスト販売をしたところ1週間後に模倣品が出てきたことがあった。そのことから考えても「すきま」でも（模倣品が出るのではないかと）心配されていることは理解できる。かといって、特許をとるとかの守りに入ると金がかかりすぎる。海外で安易に模倣できない、例えば手づくり的な要素を残すことが重要だ。機械だけでは模倣できない要素にデ研生が気づいていれば、就職後にも役立つだろう。

茜は大事な日本の色だ。この話題をどこまで広げられるかが重要だ。私自身は茜の季節感は秋だと思っている。ただ、3、4月の大阪の夕日も茜と同じ系統の色だ。四天王寺の坂を下ったところが海だった頃、そこから見えた夕日が今も見えて、万葉集の枕詞になっている大阪の名物だ。古典との関係も調べたり、生地の違いで染め上がりの色が違うとか、もっと色やその色に対する言葉の違いのバリエーションに注目するとよい。同じような意味で、ディズニーさんがピンクだけで3600色持っていると言っていたが、サンプル屋としても参考にしたい。実際のところサンプル屋はそれぐらいの色数を持っているが、言葉でそれを言い表す工夫が必要だと考えている。技術継承では最も大事なポイントであるし、これから作っていかねばならないと考えている。今話した内容をデ研の方でも考えてみてほしい。フーフー、ワーワー、ギャーギャーといったオノマトペを使ったセミナーを見たが、今の若い人のオノマトペはたいがいカタカナだ。日本の文化の中ではひらがなの言葉もある。「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく」のやうやうにあたる日本文化のオノマトペと今の擬態語としてのカタカナ言葉をそれぞれ広げてつなぎ、もっとバリエーションを増やすと良い。

デ研生は実際に動いている、トライアルしていること、飛び込む力があるって研究心、冒険心旺盛なところが良いし、それがデザインという形に出ていると思う。自分で頭を打たないと世間とのずれがかわらないものである。そういう意味で、デ研生の活動に対してバックアップはしても止めないほしい。

## (2) その他のご意見

今の子どもへの教育は安全なように見えて、実は危険であると思っている。危ないことを知っていて回避するのと、知らずに安全な状態にするのでは本質が異なる。デザイン教育も同じで、危険の一手手前までさせてあげてください。ここから先が安全かどうかはわかった人にこそ良いデザインが生み出せる。失敗するまで見守ってあげてほしい。学生ならば失敗しても許させる部分があると思う。

消費者は〇〇さんの2次元で調べてから実店舗に来る。写真情報からその時点でボリューム感が1~2割大きなイメージを持っている。そのボリューム感をサンプルが修正する役割を持っている。あるいは匂いを伝えたい。そうすれば災害などのイメージも伝えられる。今の映像の世界に匂いや肌触りを加えたい。すなわちアナログとの併用が必要になっている。サンプルの役割は食後にもう一度確認することがある。リピーターになってもらえるかどうかがかかっている。いくなれば実店舗から帰るときのチラ見の怖さです。またサンプル業界では地域性を強く感じる。フランス料理の世界とも通じるが、東京のほうでは高いものを食べたいという意識が強く、お金を出せばおいしいと考える。すなわち情報を食べているとも言えて、情報を早めにインプットしたほうが良い場合と徐々にインプットしたほうが良い場合とがある。

記録者

今里商店街のハロウィンの報告資料の説明。

E委員

(1) 産業界との連携について

IT、WEB業界からみた状況を話したい。デ研生におとなを相手に実際にプレゼンをさせているところが良い。他の専門学校生や大学生と比べてみると、次のような特長があげられる。他の専門学校生は手を動かしながらものをつくることが中心。一方、他の大学生は、学びたい、研究したいという自分で意思決定させることが中心。デ研の場合はその両方の要素を兼ね備えている。他の専門学校生や大学生は学校外の人とコミュニケーションをとる場がほとんどないが、デ研では日常的にあるところが良い。プラスIT、WEB業界では課題解決能力が求められる。〇〇の場合、100以上もの課題解決の要員がいる。例えば缶バッジなら「どうやったらバズらせるか」、「ツイッターにアップしたくなるデザインとは？」という課題を解決する必要がある。インターネットの最新テクノロジーやARやVR等も知る必要がある。インターネットリテラシーも必要。それはマルチメディアの分野でも同じである。

(2) その他のご意見

WEBより紙で考えるほうが良い場合もある。「ゲームが好き」と「ゲームが作りたいたい」はぜんぜん別。単にゲーム好きだけではゲーム業界に向いていない。新しいものをつくるのが好きであることが重要だ。

記録者

学生が失敗しないようにするのではなくて失敗しても良いから見守ったほうが良い、という話が印象に残った。企業が学生に期待することが企業内でできないことにあるという感想を持った。